

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会
 プライマリ・ケア認定薬剤師研修会
**「今さら聞けない
 性感染症 と がん の話」**
—6 時間コース—

(2018 年 2 月 18 日 日曜日)東京開催案内

【一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会は日本医学会の第 109 分科会です。そして、プライマリ・ケア認定薬剤師制度は公益社団法人薬剤師認定制度認証機構(GPC)から「特定領域」の認定制度としての認証(認証番号 P02)を取得いたしております。】

薬剤師の本質はジェネラリストですが、今回は性感染症・がんという専門性・臨床経験の必要な領域の研修を行います。「HIV 感染症と抗 HIV 薬について」、「薬剤師も知っておきたい性感染症の話～梅毒と HIV を中心として～」、「学校におけるがん教育の実践とその成果」、「抗がん剤治療鎮痛剤治療における地域連携、院内連携」という構成で 6 時間の講演をお届けします。最新の知識と情報で理解を深め現場で役立つ貴重な研修に、奮ってご参加ください。

(細則による必須領域 : A, C, D, I, J)

要 項		
1	主 催	一般社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会 プライマリ・ケア薬剤師認定制度委員会、生涯学習委員会
2	研修開催日	平成 30 年 2 月 18 日(日曜日)
3	研修会場	アーバンネット神田カンファレンス 2階2A 〒101-0047 東京都千代田区内神田三丁目 6 番 2 号 アーバンネット神田ビル 2 階 案内図 http://kanda-c.jp/access.html
4	認定単位	薬剤師:4単位(認定薬剤師単位)、医師:5単位(更新のための単位)
5	受講資格	薬剤師、医師、歯科医師、看護師、医療職、医療関係者
6	定員	72 名(スモールグループ形式)
7	受講申込	締切り:平成 30 年 2 月 2 日(金)午後 5 時 ホームページからの申込による先着順となり、定員になり次第締切ります。 電話、ファクシミリ、メールによる申込は受付けておりません。
8	受講振込	申込を受理後、順次ご入金方法についてメールでご案内させていただきます。 ※ 指定期日にお振込みの確認ができない方は、キャンセル扱いとなりますのでご留意願います。
9	受講料	11,000 円 但し、日本プライマリ・ケア連合学会会員は 9,000 円 ※ 受講料入金後のキャンセル又は欠席の場合、原則として受講料の返金はできません。
申し込み先 : 日本プライマリ・ケア連合学会事務局担当係 プライマリ・ケア認定薬剤師研修会事務局 〒550-0001 大阪府大阪市西区土佐堀 1-4-8 日栄ビル 703A 有限会社あゆみコーポレーション内 TEL:06-6449-7760 FAX:06-6441-2055 jpca@a-youme.jp		

プログラム

2018年2月18日(日曜日)

9:00～	受付
9:20～10:50	<p>① 「 HIV 感染症と抗 HIV 薬について 」</p> <p style="text-align: right;">講師:佐野 俊彦</p> <p>近年、抗 HIV 薬の進歩は目を見張るものがあります。開発初期と比較して、用法も用量もシンプルになりました。HIV 感染症治療はこれらの薬剤を服用することで、慢性疾患の一つとみなすことができるようになってきました。今回は治療ガイドラインに沿って、日頃馴染みの少ない疾患について説明し、治療薬の使用方法、服薬指導について紹介します。また、保険薬局にお勤めの方でも認定薬剤師の資格が取得可能な分野です。その制度についても話したいと思います。</p> <p>(細則による必須領域:A,C,D,J)</p>
11:00～12:30	<p>② 「 薬剤師も知っておきたい性感染症の話 ～梅毒と HIV を中心として～ 」</p> <p style="text-align: right;">講師:今村 顕史</p> <p>性感染症は奥が深い。性行為で感染する病原体は多彩であり、人の性行動も多様化している。そして、性感染症の話題も刻々と変化している。今、日本では梅毒が流行しており、20歳代を中心とした女性の中でも梅毒が増えている。また、HIV 感染症の分野においては、抗 HIV 薬による性感染の予防対策が話題となっている。本講義では、薬剤師も知っておきたい性感染症の最新情報を、梅毒と HIV を中心に解説する。</p> <p>(細則による必須領域:A,D,J)</p>
12:30～13:20	昼食 (各自でご持参ください)
13:20～14:50	<p>③ 「 学校におけるがん教育の実践とその成果 」</p> <p style="text-align: right;">講師:林 和彦</p> <p>第二期がん対策推進基本計画では、「がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育」は不十分であるとして、学校におけるがん教育を提唱していたが、先日公表された次期学習指導要領には、がん教育を実施するように記載されることが明らかになった。全国で一斉にがん教育が開始されているが、本講演では、演者が行っているがん教育の授業内容やその成果を具体的に示し、実際の授業映像もダイジェストで供覧する。</p> <p>(細則による必須領域:A,D,I,J)</p>
15:00～16:30	<p>④ 「 抗がん剤治療鎮痛剤治療における地域連携、院内連携 」</p> <p style="text-align: right;">講師:伊東 俊雅</p> <p>がん・緩和ケア領域の薬剤師を含むチーム医療においては、日常行なわれる服薬指導、適正使用の実地管理のほか、患者 QOL 向上のための支持療法を中心とした薬物療法の推奨、最新の薬物治療のエビデンスの評価と提供などが含まれる。特に広範囲に及ぶ抗悪性腫瘍剤等のがん医療、緩和ケア医療領域の薬物療法は、EBM/NBM に基づいた医療が求められることから、本講座では実際の連携について概説する。</p> <p>(細則による必須領域:A,C,D,J)</p>

20分以上の遅刻・早退は原則単位になりませんのでご注意ください。

【講師紹介】

佐野 俊彦(薬剤師) がん・感染症センター都立駒込病院 薬剤科 HIV 感染症専門薬剤師
 今村 顕史(医師) がん・感染症センター都立駒込病院 感染症科部長
 林 和彦(医師) 東京女子医科大学病院がんセンター長
 伊東 俊雅(薬剤師) 東京女子医科大学東医療センター薬剤部長 がん薬物療法認定薬剤師 緩和薬物療法認定薬剤師